



「田楽踊りをする萬齋さんの演技に本当に引き込まれました」

萬齋 田楽踊りに関しましては(苦笑)。困ったことに、台本には「田楽踊りを踊る」としか書いてなくて、歌詞も振り付けも何もなかったんです。監督と打ち合わせをして、私がやりやすいようにやらせていただくことにしました。私が歌詞や振り付けを考えましたんですよ。

市長 ご自身で考えたんですか。田楽踊りにはそんな秘話があったんですね。

萬齋 そうなんです。四十年余り狂言をしてきましたが、狂言で培った知識や経験を基に、2万人を引き付けるためには何が必要なのかをつくづく考えました。その結果、5歳の子どもでも喜んでくれるような、あまり理屈を考えずに楽しめるような歌や踊りを、そして、ちよつと「すき」を見せながら、敵の陣地に近づき、2万の敵を引き込ませる演技を心掛けました。そう考え

ると、非常におもしろいシーンですよ。

市長 あの演技は萬齋さんにはできないですよ。本当に引き込まれました。

萬齋 本当ですか。私は田楽踊りのためだけに、映画に出演したわけじゃないですよ(笑)。踊りの撮影はオープンセットでしたので、常に天候との勝負でした。撮影は京都でしたが、2万の軍勢はすでに北海道で撮影していましたので、私一人で2万の軍勢が目の前にいることを想像しながら踊っていたんです。

市長 このような秘話を聞かせていただくと、違った視点で映画を楽しむことができますね。



「田楽踊り」のシーン



©2011『のぼうの城』フィルムパートナーズ
大ヒット上映中

成田長親の リーダー像に迫る

市長 戦国時代は、家臣や農民を引っ張っていくリーダーが多いいと思います。長親のリーダー像についてどう思いますか。

萬齋 長親は、自分がリーダーだと思っていなかったのではありません。父親も家臣の正木丹波守まさき たんばのかみと利英としひでに「お前が城代になれ」と言ったぐらいですから、いろいろ

なタイプのリーダーがいると思いますが、のぼう様に限って言えば、みんなを引っ張っていくリーダーではなくて、周りを和ませる能力に優れたリーダーだったんじゃないでしょうか。彼の周りには自然と「和」ができて、それぞれの家臣が自分の持っている

能力を存分に発揮していく。部下が競い合っている中、リーダーの長親がいることで、自然と和がとれて、組織がうまく機能する。そんなリーダーだったんじゃないでしょうか。

市長 私は、リーダー像の話をする時、山本五十六の名言「やってみせ、言っただけで、させてみて、褒めてやらねば人は動かさじ」を思い出します。人を動かすためには、その人の心を動かさなければならぬのではないのでしょうか。萬齋さんのおっしゃるとおり、いろいろなタイプのリーダーがいると思いますが、相手の心を動かす努力や能力が必要であると考えています。長親は、家臣をはじめ農民の心を動かすことに長けていたリーダーであったと思いますね。



映画

「のぼうの城」への思い

萬齋 映画のエンドロールで、現在の行田の風景が映りますけれども、私としてはとても印象的だと思っています。行田は、豊臣軍から水攻めを受けた後、復興し、そして現在に至っています。この映画は単なる時代劇でなく、復興をテーマにした作品でもあると思っています。

市長 自身も、「乗り越える

力」というものを強く感じました。

萬齋 そうですね。「みんなで力を合わせれば、復興できる」というメッセージになればと思います。

市長 現在の石田堤や丸墓山古墳の様子がスクリーンに映し出されたとき、行田市は、将来に継承すべき輝かしい歴史や文化遺産が数多く残っていることに感慨深くなりました。水攻めから復興したわがまちを心の底

「2万人を引きつけるためには何が 必要なのかをつくづく考えました」



野村萬齋 さん

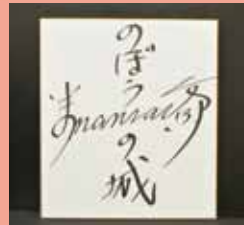
昭和41年生まれ、東京都出身。祖父・故六世野村万蔵、父・万作に師事し、3歳で「**うぼろ**」にて初舞台。国内外で多数の狂言、能公演に参加、普及に貢献する一方、「オイディプス王」（平成14年・16年）をはじめ、数々の舞台に出演。ほかにもNHK Eテレ「にほんごであそぼ」へのレギュラー出演（平成15年～）、世田谷パブリックシアター芸術監督（平成14年～）など、現代に生きる狂言師としてあらゆる活動を通しおんみよし狂言の在り方を問うている。映画への出演は、「陰陽師」（平成15年）以来、9年ぶりの主演となる。

「PRESENT」

読者
プレゼント

野村萬齋さん直筆サイン色紙

野村萬齋さんの直筆サイン入り色紙を5人の方にプレゼントします。



応募方法

住所、氏名、電話番号、「市報ぎょうだ」に対する

意見・感想を記入の上、2月28日（木）までにはがきまたはEメールで広報広聴課スペシャル対談プレゼント係

【郵送】〒361-8601 行田市本丸2-5

【Eメール】koho@city.gyoda.lg.jp

なお、発表は発送をもってかえさせていただきます。

市民の皆さんへ

メッセージを

から誇りに思います。私は、こうした貴重な資源を最大限に活用し、市民総ぐるみで行田ならではの「オンリーワンのまちづくり」を進めています。これからも、先人から受け継いだ誇りや情熱で「活力みなぎる元気な行田」を発信していきます。

市長 最後になりますが、市民の皆さんにメッセージをお願いいたします。

萬齋 この映画をきっかけに、行田市が全国区になってほしいですね。私も、狂言を開催させて

いただくような機会があればと思っています。

市長 ありがとうございます。もし、開催されれば、行田の知名度も上がると思います。映画「のぼうの城」は、行田の魅力を全国に発信する絶好の機会であるとともに、行田の素晴らしさを改めて認識し、誇りを感じることでできる作品だと思います。今後とも、私は行田に誇りを持ち、活力と希望に満ちたまちづくりを市民の皆さんと共に進めていきます。本日は、貴重な時間をいただき、本当にありがとうございます。

